



よこはま プロバス通信

No7 2012年10月発行

<http://yokohama1probus.web.fc2.com/TR3.html>

情報委員会・編集委員

情報委員会所在地：横浜市中区港町3-13番地 弁慶内 電話：045-651-3643

会員相互の親睦、情報交換を深めよう

会長 大久保 武

理事・役員等選出方法の改正後初めての執行部であります。プロバスクラブは、親睦団体であると共に、お互いに、豊かなキャリアを活かしながら社会に貢献していこうという団体でもあります。

このことを念頭に、設立に努力された諸先輩に感謝しつつ、団体の運営に関する基本理念（次の三原則）を堅持していきます。

- ①適正な会員数の維持・確保
- ②適正な財務状況の維持・確保
- 運営に必要な経費の拡充

③諸行事の楽しさ、楽しいプログラムの工夫・提供

この三原則を堅持していくと共に、総会にて承認された当年度の活動方針である倶楽部の3つの柱—例会委員会、会員委員会、情報委員会—その具体的活動の充実に努めてまいります。

特に例会が楽しい会になるよう、会員同士の親睦情報交換等が深められるよう、わずかでも懇談の時間を設けたいと思っています。

15周年に向けて更なる発展



幹事 松下尚雄

今期再び幹事の任を務めることになりました。大久保会長をしっかりと支えられるように各委員会のメンバーと力を合わせ一生懸命取り組んで参りますので皆様のご声援をよろしくお願いいたします。

のため、これらの課題に取り組んでいくと共に、2014年には横浜で全日本P C協議会総会の開催が予定されていますので、これらの諸事業の成功のためにも、皆様のご協力を得ながら会の発展に尽力して参ります。



私事ではございますが平成21年6月節目となる第10回定時総会にて第10代幹事兼例会委員長に選出されましたが8月31日頸椎（軸推）を骨折誕生日と命日が一緒になるところでした。9月～11月業務遂行できずご迷惑かけました。今回は健康にも留意して無事に役目を遂行してまいりたいと思っています。

第5回全日本プロバス協議会総会の開催

全日本プロバス協議会 会長 金森 正夫

「朋あり遠方より来る、また楽しからずや」プロバスクラブの集まりにぴたりの言葉です。およそ2500年前に孔子様がおっしゃいました。

第5回全日本プロバス協議会総会を下記のとおり開催致します。

遠方のところ、そしてお

忙しいところ誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせのうえ、是非ご出席下さいませようご案内を申し上げます。

平成16年（2004年）5月23日（日）大阪会議において全日本プロバス協議会を設立しました。今年は9年目に入っております。全日本プロバス協議会の活動もよ

うやく軌道に乗ってまいりました。

現在、プロバスクラブは日本全国で108クラブ、全日本プロバス協議会への加盟は60クラブです。

①全国のプロバスクラブが交流と親睦を深め、情報交換を行なうことが総会の目的です。

②各クラブの活動状況を知り、それをご自分のクラブ活動に生かしていただきたいのです。

③これからの活動について活発なご意見をお願いします。

◇

日時：11月13日 11時～
場所：ANAクラウンプラザホテル神戸10F

会費：8500円
宿泊：9200円(ツイン/1人)

◇

「関西1泊親睦旅行」を兼ね総会に参加しましょう
申し込み：森山まで

6月例会（第129回）

第13回定時総会開催

平成24年6月8日（金）14時から、進交会館にて6月例会が開催されました。当日は定時総会日でもあり、29名の参加を得て盛大な開催となりました。

森山会長の1年間のお礼の挨拶の後、誕生月の岩城孝子会員、保谷英雄会員へのお祝い品贈呈が行われ、引き続き5月ビジター参加の富永和男氏、宮川清彦氏の入会紹介と両氏挨拶がありました。さて、引き続き、第13回定時総会が開催され（議長は森山会長）西山副会長から事業報告、小磯会計担当から決算報告、加藤武会計監査から監査報告がそれぞれ行われ、承認されました。

次に、新年度理事の選出に移り、会則9条理事定数8名を14名以内に改訂する議案承認と併せ、正副で2年務める新方式による、下記の会員が新理事に選出されました。

休憩を挟んで、大久保新会長から新役員構成案（下記）、松下尚雄幹事（再任）から新年度活動方針・例会等年間日程案、小磯会計担当から新年度収支予算案が発表され、それぞれ原案通り承認されました。

森山現会長から、退任に当って、改めて1年間の会員への感謝の挨拶があり、総会を閉会しました。

次に、恒例の懇親会において、大久保新会長から、創立15周年に向けた当会の更なる発展に努めたいとの



山手ロータリークラブを表敬訪問
（左から3人目山崎登志雄RC会長を囲んで）

ブから、比留川勇社会奉仕委員長、平賀泉次年度会長、飯島昭会員の3ゲストをお迎えし、総勢31名の参加を得て、大変盛大な例会となりました。

初めに大久保新会長から、「相互理解、コミュニケーションの推進で楽しい倶楽部に」「会員間の情報共有による活動の活発化」「各メンバーによる入会会員増で倶楽部の輪を拡大」の3つの努力目標が示され、3つの各委員会で担当していくことになりました。

ゲストの紹介と挨拶の後、松下尚雄幹事から今期各委員会の委員構成の説明等があり、引き続き原田正成新会員委員長から、恒例の「誕生月お祝い品贈呈」が7月、8月生まれ佐藤、関、東野、高橋、原田、本橋各会員に対し行われました。

7月の会員放談は、本橋ふみ子氏による「ベトナム見聞録」で、現地仕立ての鮮やかなアオザイに身を包み、アクセサリーもベトナム製という力のこもった講演となりました。

恒例の今月の歌「故郷」を斉唱して閉会。

9月例会開催（第131回）

平成24年9月14日（金）12時から、相生本店にてゲストの海老沼幸二東京・江北RC元会長をお迎えし、8月例会が開催されました（30名参加）。

初めに大久保会長から、9月5日の山手RC表敬訪問（5人）について報告があり、これからも交流を深めていきたい旨、挨拶がありました。

次に松下尚雄幹事から会務報告があり、・11月13日の全日本PC協議会総会への参加 ・各委員会開催結果報告 ・各委員会の役務について説明等がありました。また、10月の移動例会（横須賀軍港めぐりと昼食会）について本橋例会委員長から説明がありました。旅行同好会は、9月17日から北京へ、また、ゴルフ同好会は9月24日に実施されます。

9月の誕生月会員は7人ですが、出席の大久保武会長、樋口健太郎会員、関口尚親会員の3人に原田会員委員長からお祝い品が贈られました。9月の会員放談は「トルコの魅力」と題して、松下孝氏が行いました。

恒例の月の歌「赤とんぼ」を斉唱し閉会。



決意が述べられました。

乾杯は、恒例により加藤義一アドバイザーの発声で行われ、活発な懇談会となりました。

最後に青木新副会長の推薦、音頭による「ともだち」を斉唱して、閉会となりました。

【新役員構成】会長・大久保武 副会長・青木伊平 幹事・松下尚雄 副幹事・関口尚親 会計監査・加藤豊・中村實 例会委員長・本橋ふみ子 同副委員長・東野操 会員委員長・原田正成 同副委員長・保谷英雄情報委員長・荻原信吾 同副委員長・平野正弘 常任理事・加藤武・森山功 会計・事務局・小磯智功（敬称略）

7月例会開催（第130回）

平成24年7月13日（金）12時から、相生本店にて7月例会が開催されました。当日は、山手ロータリークラ



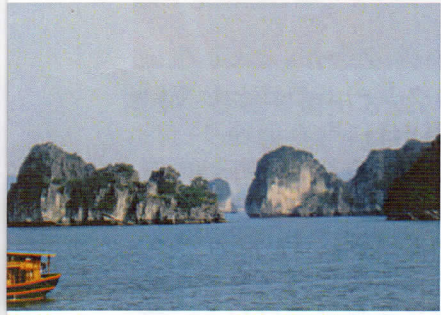
「ベトナム見聞録」本橋ふみ子氏

今回の旅行は、ベトナム戦争当時の難民で、現在、市の異文化交流事業に携わっている知人が企画し案内してくれた「6人の個人旅行」でした（昨年10月～11月）。

ベトナム人とアメリカ人の姿が目立ったホーチミン市の「戦争博物館」は、かつての過酷な歴史を改めて思い出させるものでした。

今もその結果、横浜市内にも多くのベトナム人が暮らしている現実があるわけです。平和の有難さを実感しながら美味しいベトナム料理と世界遺産

の絶景（ハロン湾）を堪能しました。余りの素晴らしさに再訪を期して帰国いたしました。（「旅行同好会」でのベトナム企画を期待していますとの声がありました）



第4回「にこにこサロン」開催

8月17日（金）16時から「弁慶」にて

平成24年8月17日「第5回にこにこサロン」が開催されました。8月は例会が休会ですが、猛暑の中、15名の会員が参加して元気に暑気払いを行いました。今回は、全員が近況報告を行い、高原での豪華休暇から自宅でののんびり休みまで、色々なお話をして頂き、充実した交流会となりました。



6時に中締めた後も、更に遅くまで2次会が続行したとのことです。青木副会長、ありがとうございました。

「トルコの魅力」 松下 孝氏



ここ3年間毎年トルコを列車か車で4～5000キロも廻っている松下孝会員によるものでした。当日は、講演への期待で30名の会員が集まりました。

松下会員は、13年以上前からトルコの旅を続け、今や玄人はだしのトルコ考古学の専門家であると言えます。いずれこの通信に寄稿していただくことにして、今回は、豊富な収集写真を交えた盛り沢山なお話のごく一部をご紹介しますことにします。



まず、トルコは極めて親日的でエジプト以上に古い遺跡が多々あるものの、日本人に似てPRが下手なためあまり知られていない。

こうしたところも含めとても親近感を持てる国民である。



プロジェクターを使ってトルコ報告

トルコの歴史は、紀元前2世紀の鉄文明ヒッタイトが身近で有名だが、最近、紀元前11、600年の遺跡（シリアとの国境地帯アレポから70キロ）が発掘されるなど、世界一古いものは数多くある。例えば・小麦の原種・イチジク、チューリップ、杏子などの発祥の地・サンタクロースの生誕地（トルコから北欧へ）・パウロ、ヨハネ・ペトロ；いずれも元々トルコの地元の新興宗教家であった。そして、人々は、先祖を大切に、古いものを大事にしている。

遺跡や博物館は沢山あるが、イスタンブール博物館には、15世紀オスマントルコ時代を描いた絵画をはじめ、色々興味深いものがある。もっと世界に向けてアピールし、トルコの魅力を多くの人に知ってもらいたいと思っている。

〈理事会報告〉

7月理事会（7月20日、9名）

（報告事項）・7月例会に山手ロータリーから3名参加。3万円協力金受領。各委員会で協議した役割を9月例会で報告する。・例会委員会から；例会の食事内容等について検討する。

（協議事項）・9月例会について；各委員会の役割を再確認する。・会員放談は「トルコの魅力」松下 孝氏。・10月移動例会（12日金）、横須賀軍港めぐり。

8月理事会（8月17日、11名）

（報告事項）・各委員会役割の再確認・9月5日、山手RCへ大久保会長以下5名表敬訪問

（協議事項）・10月移動例会（12日金）、横須賀軍港めぐりと昼食会決定・プロバス通信；10月号の後、12月に臨時特集号を発行（提案）

9月理事会（9月21日、10名）

（報告事項）・委員会開催結果報告・岡林、伊藤、豊岡の3会員

から退会意思表示あり。・山手RC表敬訪問；9月5日正副会長幹事、会計等の5名参加・プロジェクター購入・富永会員、例会委員に異動

（協議事項）・10月移動例（横須賀軍港めぐり20名参加予定）の詳細打ち合わせ。・横濱プロバス通信7号10月発行・11月13日全日本プロバス協議会17人参加予定。交通費等の経費補助を決定



会員 中村 實

中区妙香寺台にその名を刻む「日蓮宗本牧山妙香寺」の脇から、山手町、諏訪町方面へ向かう緩い登り坂を「ビアザケ通り」と呼ぶ。

開港後間もなく、ノルウェー生まれの米国人W・コーブランドがビールを醸造した折の水源「天沼（あまぬま）」の水一別名ビール井戸はこの坂の途中右手、市立北方（きたかた）小学校の校庭にある。現代の邦人は等しくビールと呼ぶが、開港期の横浜人はこれをビアと聴いた。たしかにビールホールと聞くことはない。ピアホールだ。耳の確かな当時の横浜人は外国人との会話の中からビアは酒だと酌み取ったに違いない。さればこそビアザケ通りの名称が生まれたのだ。

片や私達はウィスキーというが、当時の横浜人はホイスケと聴いていた。更に文字にするとホイ助と書き使っていたという。ビアといい、ホイ助といい、単語のスペルなど見ないで、耳からだけで外国語を会得していたのだから、現代人からは到底想像のつかない異文化吸収の苦しみがあったものと思われる。

「ビアザケ通り」と地図上にはあるがこの通りには標識等はない



5月9日は横浜ではアイスクリームの日としているが、明治2（1869）年5月9日に馬車道通り（当会の奇数月の例会場「相生」の辺り）に町田房造が本邦初の「氷菓子屋」を開業したことに因む。だが当時はアイスクリームとは呼ばず、アイスクリン（隠語で高利貸しのこと＝発音が氷菓子と同じ）と呼んでいた。これは発音だけではなく、語意に着目した「浜ことば」である。本邦初のキリスト教主義女学院フェリスでは体操の時間にはレフライ、レフライの掛け声が運動場から聞こえた。レフト、ライト（左、右）の意味だ。このように英語から生まれた和製語「浜ことば」は多くを数える。

（編集部注：次号からタイトルを1、横浜の鉄道遺跡紹介2、「横浜の海六景」3、近隣七市との境界を歩く等とし六回読切連載で引続き中村實氏に執筆をお願いしております）

● 常任理事 加藤 武

全日本プロバス協議会便り

③

会長及び幹事長就任要請の経過は前号に掲載したとおりですが、昨年11月には神戸で開催される第5回総会のための準備のための理事会にオブザーバーとしての出席要請がありました。全日



本及び当方の環境が整っていなかったため出席を辞退いたしました。

会長・幹事長の就任要請については困惑やら苦慮いたしました。本年4月3日京都で開催された役員会には是非出席して欲しいとのことで森山功氏と共に出席をし、正式に次期会長・幹事長候補者として受ける旨表明いたしました。

役員会はオブザーバーとしての出席でしたが、全日本としては「上部団体ではない、情報センターとしての役目」を果たすという従来からの考えである旨強調されたが「一つの団体である以上運営に要する機能する組織と必要最小限度のルール及び活動に要する財源は不可欠であると共に、各クラブが全日本に対して何を望んでいるのか、現状の全日本として何ができるのか」という大きな課題を抱えており、今後研究・協議を重ねる必要があ

ると思う。

一方、総会時には次の総会までの2年間全日本として「どのような具体的なサービス（事業）を提供するのか」という提示（提案）が必要であり、その内容により全日本としての魅力が増し、各クラブとしても関心が深まるのではないかと。従前の総会では抽象的な目標の説明はあったが、具体的な事業計画及び収支予算の提示・提案はされていなかった」ということを申しあげたところです。

本年11月13日（火）神戸で開催されます「第5回全日本プロバス協議会総会」にて、会長及び幹事長に選任されました際には横濱プロバス倶楽部の皆様方をはじめ各クラブの全面的なご支援とご協力をお願い申し上げます。

<編集後記>

▼当プロバス倶楽部10周年を記念してスタートした横濱プロバス通信も、皆様のご協力によりまして、早くも7号を迎えることになりました。▼改めて感謝いたします。12月には特集号の発行も予定しております。▼会員の皆様のご寄稿も大歓迎ですのでこれからもよろしくお願ひいたします。
(情報委員長・荻原 信吾)